

青森県東方沖でマグニチュード6.5の地震が発生

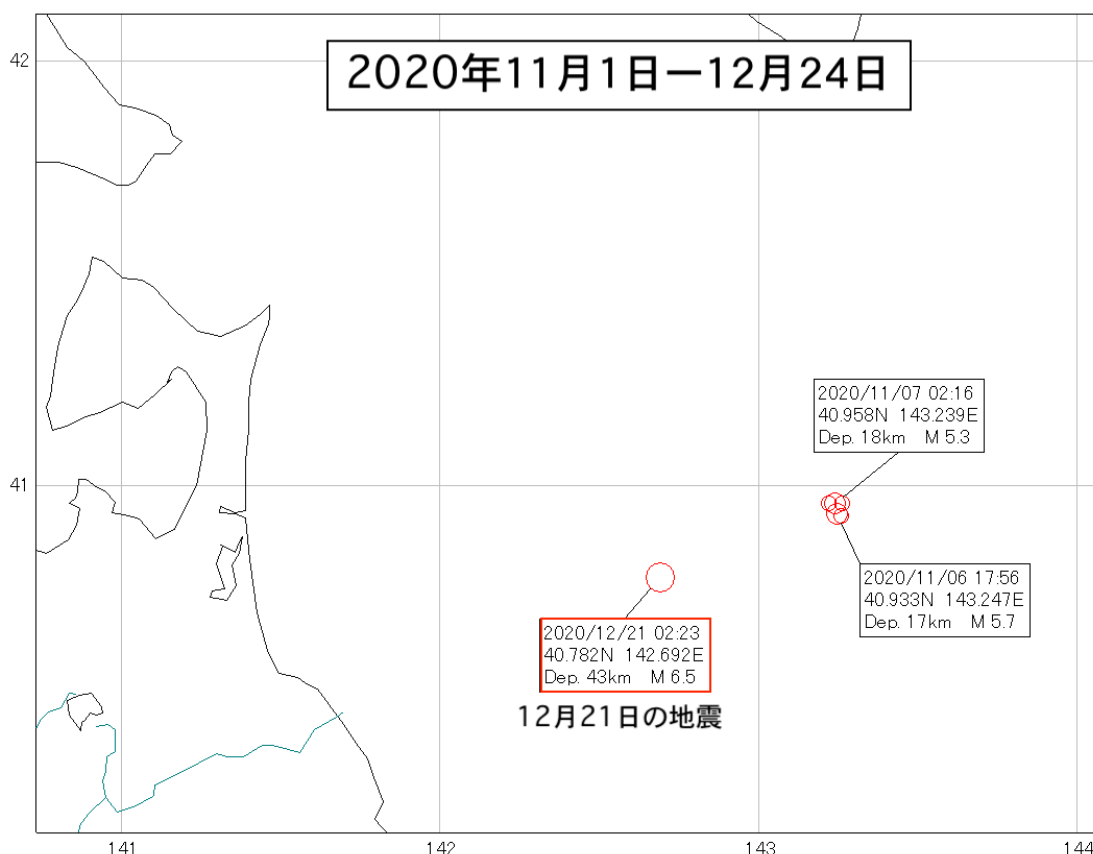
21日午前2時23分ごろ、青森県東方沖でマグニチュード6.5(ウェブでは速報値として6.3となっていますが、現在は6.5と改定されています)の地震が発生しました。実は12月27日時点では、この地震が日本列島およびその周辺で発生した最大の地震です。



日本列島およびその周辺でマグニチュード7を超えた最後の地震は、2016年11月22日に福島沖で発生した地震です。この地震は東日本大震災以降に唯一津波警報が発令された地震です。ここ数年、日本列島は少なくとも地震活動に関しては、非常におだやかな年が続いていると考えています。

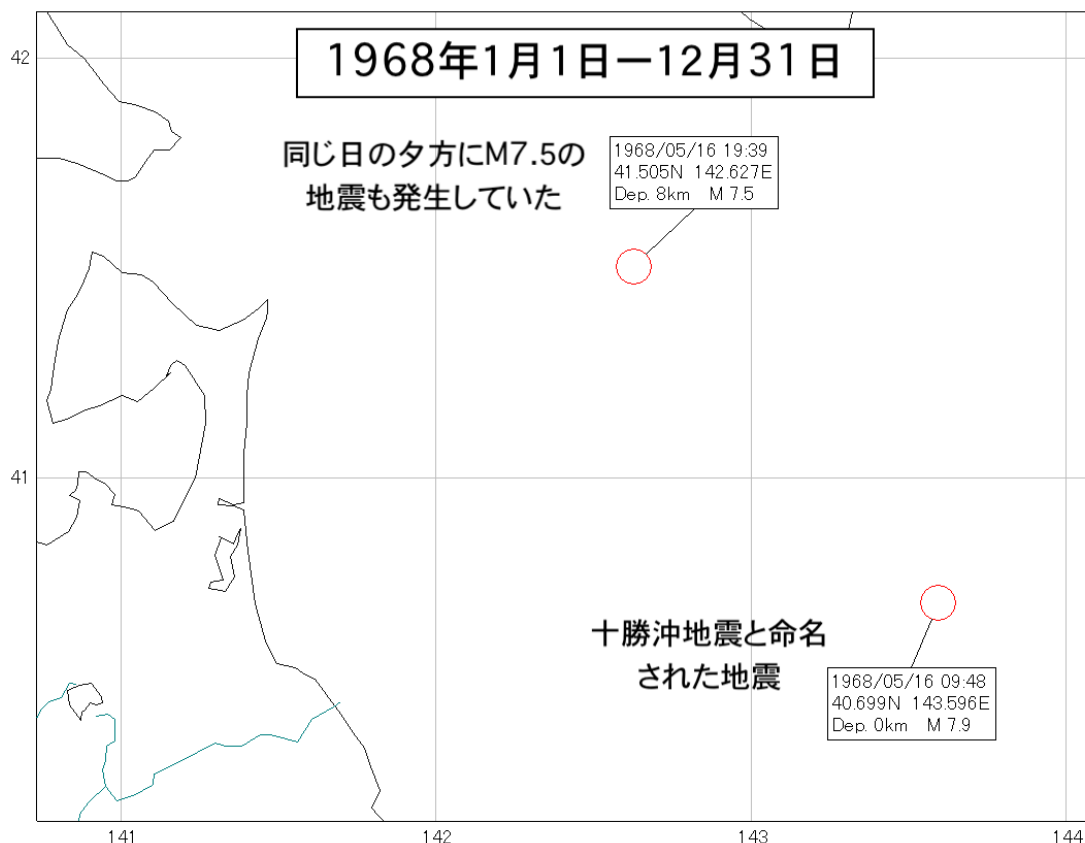
青森県東方沖の過去の地震活動

青森沖では11月6日、7日に少しまとまった活動が発生しました。さらに12月21日には前述のようにマグニチュード6.5の地震が発生しています。次にお示しする図は2020年11月1日以降の地震活動で、11月6日、7日のまとまった活動と12月21日の地震とは少し場所が異なっている事がわかります。





この青森県東方沖の地震活動を DuMA が取り上げます理由は、1) 青森県東方沖は東日本大震災で割れ残っており、歪が開放されていない。2) 歴史的にも数十年周期で繰り返しマグニチュード7を超える(8に近い)地震が発生している。3) 前回の青森県東方沖での地震は1968年の十勝沖地震(マグニチュード7.9、現在ではこの命名は正確ではなかった事が判明しており、青森県東方沖地震とでもすべきであった事がわかっている)と考えられ、すでに50年以上が経過している、といった理由です。



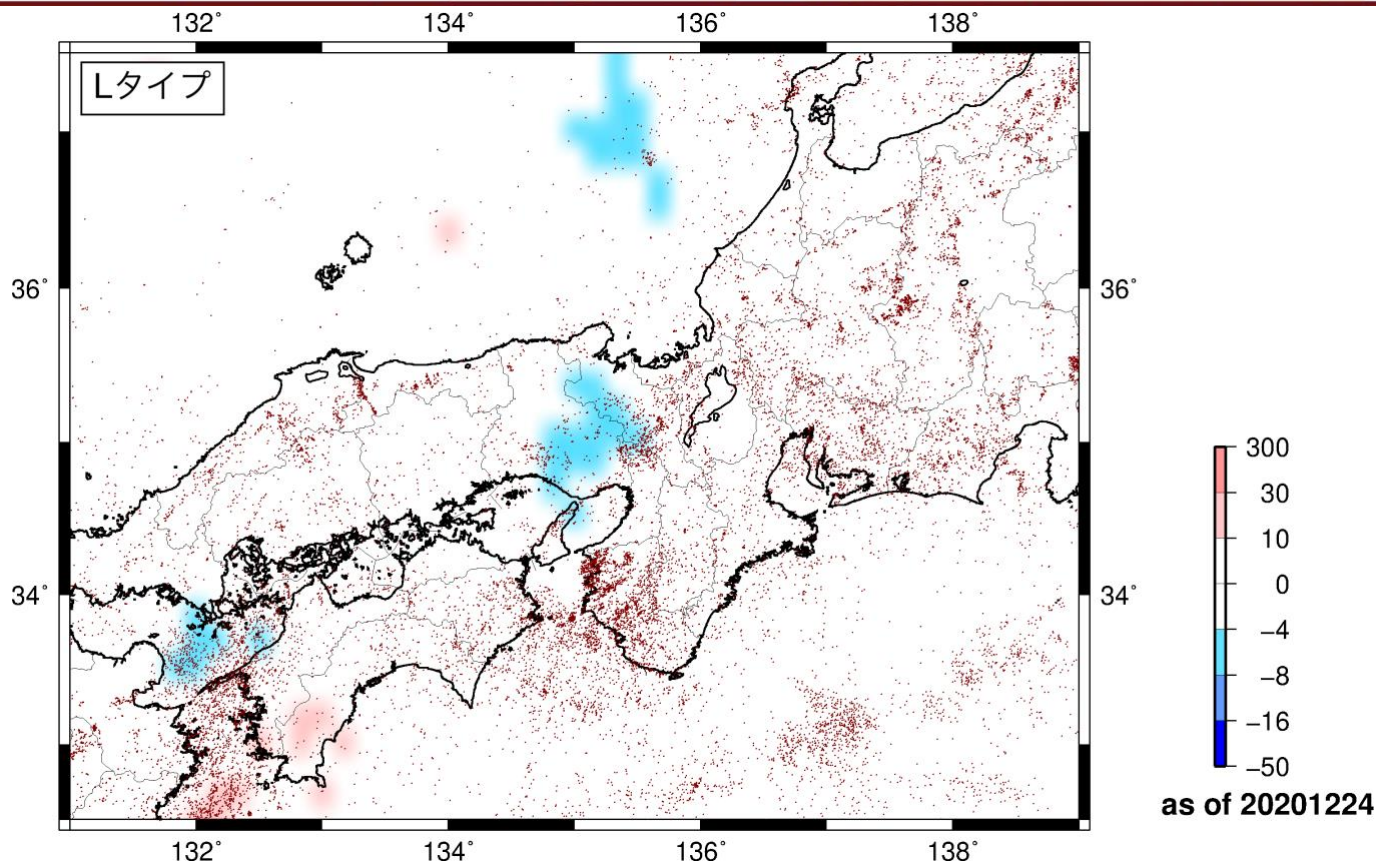
11月6日、7日に発生した地震活動は現時点で落ち着いています、地震学的に現在の日本列島では、上記のような合理的理由により、近い将来、津波を伴う地震発生の可能性が極めて高い地域と言う事ができると思います。

ちなみにこの地域の近傍では地下天気図解析による地震活動静穏化の異常も観測されている事にも留意すべきであると考えています。

中部・近畿・中国・四国地方の地下天気図®

11月16日のニュースレターに続き、中部地方から中国・四国地方にかけての地下天気図解析結果です。この地域の地下天気図解析では、東日本大震災の影響をあまり受けていない事から、過去20年ほどの地震データを使っています。

11月の段階とそのパターンはあまり変化がみられていない事がわかりました。今週は12月24日時点のLタイプの地下天気図をお示しします。



マグニチュード7以上の地震発生の予測を目指している日本列島全体の解析(最近では11月23日のニュースレター)では、関西地方に大きな地震活動静穏化の異常が見とれますが、今週の解析ではそれほど顕著な地震活動の静穏化にはなっていません。これは今週の解析が1)過去20年という長い期間のデータを使っている、2)マグニチュード2以上の地震で解析しているのですが、日本列島全域の解析では、1)東日本大震災以降に発生した地震を使っている、2)マグニチュード3.5以上の地震を解析に使っているという違いがあり、どちらが正しいという事では無いのです。

実際の天気図でも同じ日に地上天気図と高層天気図があるのと同様に、同じ日に複数の地下天気図が存在しています。

DuMA では、現在日本列島の地下で起きている事をまず正確にお伝えし、将来的には複数の手法を適用して地震発生予測を可能にすべく研究を行っております。

2020年も DuMA ニュースレターをご購読頂き真にありがとうございました。2021年は1月4日より配信を予定しています。